



子どもを真ん中に、学校・地域・保護者でスクラムを！ 校長 戸高 正弘

本日、第2学期を元気にスタートすることができました。

夏休みには、5年生が2泊3日で名栗げんきプラザへ林間学校に行ってきました。自然の中でハイキングをしたり、カレー作りをしたり、班でアクティビティに協力して取り組むなどして、集団生活を体験しました。時間前に行動することや皆で協力して取り組む大切さを学び、何よりたくさんの方の友情を深めることができた期間であったと思います。高学年として今後の活躍が期待されます。

また7月末と8月中旬には、片山町内会、道場町内会の夏祭りが開催されました。特に、片山小学校開校150周年記念を大いに宣伝して下さるとともに、児童の活躍できる場所

も様々ご配慮くださって準備をしていただきました。片山町内会では、6年生有志がダンスを披露。雨が降り始めていましたが、一生懸命に踊る姿にたくさんの拍手が送られました。



また、前号でも紹介したように、児童がお店を作って夏祭りに協力したいということで、遊びのお店を出すことになり、地域の皆様にも喜んでいただきました。



いくつかのゲーム

を準備して、小さい子どもをはじめ、大人の方にもゲームを楽しんでいただくことができました。

また、開校150周年記念行事実行委員会の保護者、ご家族の皆さんも焼鳥のお店を担当して下さり、他にもジ



ュースやパンなどを販売していただき、そこに教職員も多く参加し、一緒に夏祭りを盛り上げることができました。



子どもを真ん中において学校・保護者・地域がスクラムを組み、一体となって取り組むことができ、感慨深い思いになりました。



道場町内会では、昨年に引き続き、児童が作成した灯明が飾られており、大変幻想的な雰囲気醸し出していました。

地域の祭りに参加して改めて、地域の皆さんに子どもたちを大切に育てていただいていることを実感し、感謝の思いを強くしました。

現在、地域の方々を中心に150周年記念行事に係る御寄付をいただいております。真心からのご支援に心より御礼を申し上げます。ご期待に沿えるようさらに頑張ってお参ります。

人と比較せず、得意を伸ばし、長所に！

日本人選手をはじめ、多くの選手の活躍に大感動のオリンピックでした。特に柔道女子48キロ級金メダリスト角田夏実選手が得意の巴投げで相手を投げ切る姿に感動しました。学生時代の様子が紹介されていました。

柔道は立ったまま技をかけることが主流である中、「角田は寝技しかできない、と言われて落ち込み、悩んだことがあった。それでも先生方が自分の長所を引き出して見守ってくれたことで、巴投げからの寝技という自分のスタイルを確立することができた」と。

人と比較せず、強みを見出し、それを伸ばし、長所にすることが大切だという思いに至りました。